

# いさい踊り盆踊り大会

ふるさとに残る「いさい踊り」を多くの人に知ってもらい、踊り続けていこうと毎年「中山いさい踊り保存会」の皆さんが中心となって盆踊り大会を開いています。

ぜひ、お誘いあわせてご参加ください。

◆日時 8月18日(火)

19時30分～21時

◆場所 中山公民館前駐車場

※雨天の場合は中山公民館

2階大会議室

◆問い合わせ先

中山いさい踊り保存会事務局

(中山公民館内)

☎0858・58・2334

議室

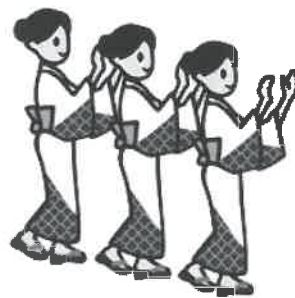
◆場所

中山公民館2階大会

◆日時 8月7日(金)

19時30分～

普及講習会を予定しております。ご参加ください。



## 第3回 大山学講座のご案内 「大山開山1300年の歴史」

◆講師 大山寺圓流院  
住職 大館宏雄さん

◆日時 8月25日(火)  
10時～11時30分  
(受付:9時45分～)

◆場所 大山公民館 大集会室

◆申込み期限 8月21日(金)  
※資料等の準備のため事前に申し込んでください。

◆申込み・問い合わせ先

大山公民館

☎0859-53-3003

## まちのたから(5) 文化財室通信

### 鉄製厨子の巻

今回は国の重要文化財に指定されている「鉄製厨子」を紹介いたします。

厨子は仏像などを安置する仏具で、大山寺霊宝閣に保管展示されている鉄製厨子は全高約74cmの円筒形をしています。反花の台座に径約41cmの筒部が載り、蓋には火焰付宝珠が付いています。筒部外面の上段には地藏菩薩の種字の陽刻があり、その下には銘板4枚が鋦止めしてあります。銘板は火災などで外れ、1枚は失われています。現存する銘板には楷書の文字が刻まれています。

銘板の内容は、「承安元年7月の火災で大山権現の宝殿とご神体を焼失。翌年6月に大山の僧侶が一山として再建に取り組むことを議定し、7月に棟上げを挙行。11月に紀成盛(当時の大山西麓付近の有力者)が金銅製のご神体と鉄製厨子を鑄造。承安3年8

月に宝殿遷宮があり、ご神体を納めた鉄製厨子を奉安した」というものです。

平安時代末期、承安3年(1173)頃の大山は、「修験の道場」「地藏の本地」として広く知られていました。山内には大山権現の信仰(地藏信仰)で繋がる中門院・南光院・西明院の三院がありましたが、一山としての「大山寺」はまだ成立してなかったようです。

大山寺の縁起には、11世紀後半頃から約百年にわたって三院で争いを繰り返したことが、嘉応元年(1169)には南光院と中門・西明両院との対立で山内の仏閣や僧房の多くを焼失したことが、承安元年の大山権現宝殿とご神体などを焼失した火災がその嘉応元年の事件に起因するとの風聞もあり、大山の僧侶たちは大いに反省し

て一丸となって再建に取り組み、復興を果たしたことが書かれています。

銘文ではその再建事業について「一山議定」したと記し、宝殿検校であった基好上人と西明・南光・中門の各院代表の僧侶が名を連ねています。

縁起には宝殿再建の後、三院の間で争うような記述はなくなり、三院の関係に変化があったようにも見受けられることから、大山の歴史上の画期の一つと言えるのかもしれない。

この鉄製厨子は、大山寺に伝わる12世紀後半期の文物として、また文献資料の少ない大山にあって、当時の様子を伝える資料としても非常に価値が高いものです。(人権・社会教育課文化財室)



▲鉄製厨子